



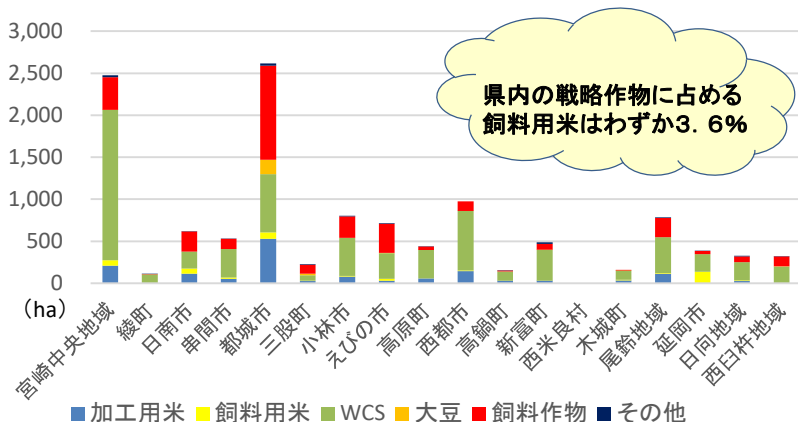
# 子実用とうもろこしを生産してみませんか

～水田を活用した支援が充実しています～

我が国は飼料穀物の9割を輸入に依存しており、宮崎県内の水田においても飼料穀物である飼料用米の作付けはごくわずかに止まっています。

宮崎県は、我が国有数の畜産地帯であり、ブロイラーの飼養頭羽数が全国1位、豚が2位となっています。

○水田における戦略作物の作付状況(令和元年産)



○飼養頭羽数の上位3県

順位	豚 (頭)	ブロイラー (千羽)
1	鹿児島 1,269,000	宮崎 28,236
2	宮崎 853,700	鹿児島 27,970
3	北海道 691,600	岩手 21,647

(注)農林水産省「畜産統計」(平成31年2月1日現在)

豚やブロイラーの飼料は子実用とうもろこしや飼料用米などの濃厚飼料です。WCSや牧草などの粗飼料は食べません。

農林水産省では、水田における子実用とうもろこしの生産に対する支援を行い、生産振興を行っています。

皆さんの地域でも水田の転作作物として子実用とうもろこしの生産に取り組んでみませんか。



## 子実用とうもろこしに対する支援

### ★水田活用の直接支払交付金

水田のフル活用を推進し、食料自給率、自給力の向上を図ります。

#### ○戦略作物助成

対象作物：飼料作物

交付単価：35,000円/10a (子実用とうもろこし含む)

#### ○産地交付金

主食用米の面積が平成30年度以降の最小面積より更に減少し、高収益作物等(※1子実用とうもろこし含む)の面積が拡大した場合に、その面積に応じて配分。

高収益作物等拡大加算

交付単価：30,000円/10a

#### ○水田農業高収益化推進助成(県が策定する「水田農業高収益化推進計画」に基づき導入する産地)

①高収益作物の新たな導入面積に応じて支援。(①は②とセット)

高収益作物定着促進支援

交付単価：20,000円/10a×5年間

②高収益作物による畑地化の取組を支援。※2

高収益作物畑地化支援

交付単価：105,000円/10a

③子実用とうもろこしの作付面積に応じて支援。

子実用とうもろこし支援

交付単価：10,000円/10a

※1 高収益作物等：高収益作物(園芸作物等)新市場開拓用米、加工用米、飼料用とうもろこし

※2 その他の転作作物に係る畑地化も同様の単価で支援

### ★国産飼料資源生産利用拡大対策のうち国産濃厚飼料生産利用推進

国産濃厚飼料の生産利用技術体系の構築に向けた実証を行うため、以下の取組を実施。(全国10地区程度)

国産濃厚飼料生産利用推進

【補助率：定額】

国産濃厚飼料生産利用技術実践

【補助率：1/2以内】

# 子実用とうもろこし生産のメリット

・面積当たりの労働時間が極めて小さく、労働生産性が高い

【10a当たりの労働時間(時間/10a)】

水稲	大豆	子実用とうもろこし
23.8	7.5	1.2

※水稲・大豆:農産物生産費統計(H28)(大豆は田)

子実用とうもろこし:農研機構資料、盛川農場実測事例(昆)

## 子実用とうもろこしの生産体系



汎用機播種



汎用コンバイン 収穫



乾燥・調製



製品

## 飼料穀物の9割を輸入に依存

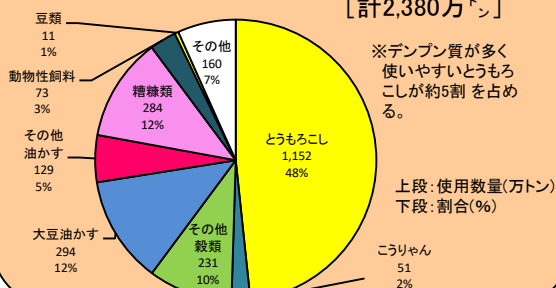
濃厚飼料	(H29年度概算)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○穀類 (とうもろこし、飼料用米等)</li> <li>○エコフィード (パンくず、豆腐粕等)</li> <li>○糠・粕類 (フスマ、ビートパルプ、大豆油粕、菜種油粕等)</li> <li>○その他 (動物性飼料、油脂等)</li> </ul>	輸入87%
	国産13%

### 最近の飼料穀物の輸入状況

・日本は飼料穀物の約9割を輸入しています。

配合・混合飼料の原料使用量(平成30年度)(速報値)

[計2,380万トン]



我が国のとうもろこしの主な輸入先とシェア

